

速 報

各関係機関の長 殿

福岡県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について（送付）

このことについて、病虫害発生予察速報第7号を発表したので送付します。

平成13年度病虫害発生予察速報第7号

1 対象作物 野菜・花き類

2 病虫害名 ハスモンヨトウ

3 発生状況

フェロモントラップの誘殺虫数は、9月4半旬以降平年よりやや多く経過し、10月2半旬に一時減少したが、10月3半旬に再び増加した（図参照）。そのため、今後もハスモンヨトウによる加害が増加する恐れがある。

イチゴでの10月2半旬調査の結果、寄生株率は平均2.1%（平年2.4%、前年2.1%）、被害株率は平均22.1%（平年17.8%、前年25.9%）であった。

キャベツでの10月2半旬調査の結果、寄生株率は平均3.7%（平年2.2%、前年6.3%）であった。

4 防除上注意すべき事項

（1）幼虫は集団となって葉を食害し、その後周囲に分散する。このため初期の食害発生に注意し、卵塊や幼虫は見つけしだい捕殺する。

ハウスでは、支柱やベンチの裏等にも卵塊を産み付けることも多いので注意する。

（2）老齢幼虫に対しては薬剤の効果が低下するので、早期発見に努め、防除効果の高い若齢幼虫期に防除を徹底する。

（3）イチゴ、ナス、トマト等の果菜類では、幼虫は葉以外にも花蕾や果実を食害することがある。

（4）ほ場周辺に繁茂する雑草は増殖源になるので、丁寧に除去する。

（5）防除薬剤については、野菜及び花き花木の各病虫害防除基準を参照する。

（6）農薬安全使用基準を守り、危被害防止に努める。

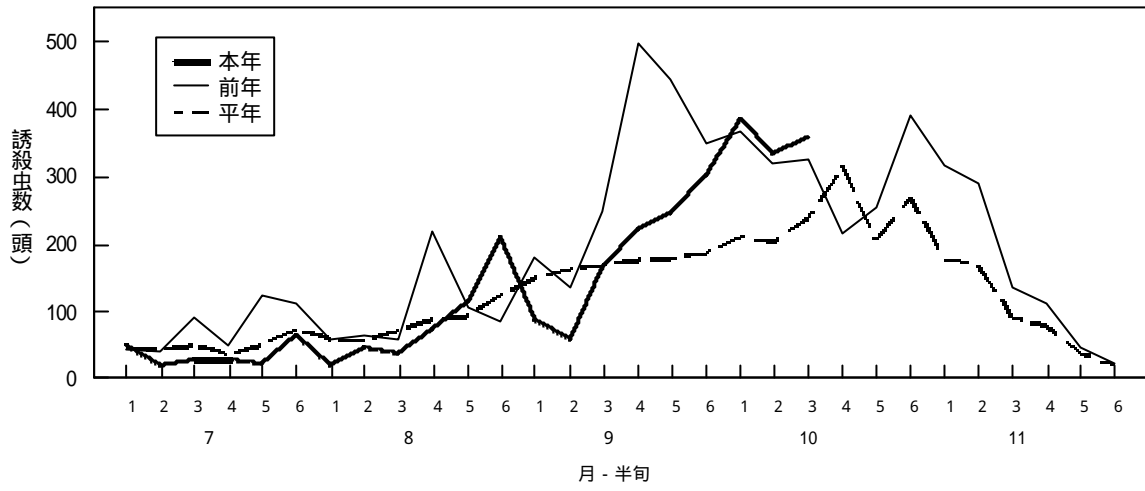


図1 ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺虫数の推移 (筑紫野市)